

5 . 水利用の現状

5 - 1 水利用の現状

1) 発電

大淀川の発電事業は、大正2年11月、大淀川支川岩瀬川水系に200kW（現在廃止）の高原発電所を設けたのが最初で、その後、大正15年1月に大淀川第一発電所、昭和3年に野尻発電所、昭和7年には、大淀川第二発電所と続いて発電所が建設された。

その後発電所の建設はなく、戦後、昭和33年綾第一南発電所、昭和34年綾第二発電所が綾川総合開発の一環として建設された。さらに、昭和42年7月には宮崎県により、高さ55.5mの他目的の岩瀬ダムが完成した。

現在における発電所数は12ヶ所にもものぼる。使用水量の総計は最大時約460m³/s、常時約100m³/s、最大出力は約24万kWである。

表5-1 発電所一覧表

河川名	発電所名	水利用者	発電水量 (m ³ /s)		出力 (kW)	
			最大	常時	最大	最小
大 淀 川	大淀川第一	九 電	165.00	26.83	63,343	7,900
	大淀川第二	"	149.48	37.06	81,276	17,340
本 庄 川 (綾北川含)	南	"	1.81	0.25	595	38
	綾第一北	宮崎県	14.00	2.83	13,390	1,100
	綾第一南	"	10.00	2.70	14,876	2,300
	綾第二	"	26.00	5.26	32,189	5,300
	田代八重	"	14.00	2.51	7,038	0
岩 瀬 川	野 尻	九 電	5.56	3.75	1,230	670
	岩 瀬 川	宮崎県	50.00	12.89	21,389	3,700
	猿 瀬	"	22.00	8.17		
そ の 他	溝 之 口	九 電	1.11	0.93	320	190
	駒	山田町	2.66	1.82	625	290
計			461.62	105.00	236,274	38,828

出典) 水利権一覧表 (宮崎工事事務所 平成13年8月)
岩瀬川猿瀬発電所は施工中

2) 農業用水

大淀川流域のかんがい事業は用水路や井堰の改修、揚水機の設置等がその主なもので、水利施設の改善によりその経済効果は著しく向上しつつある。

本流域においては、かんがい用水路とともにため池を併用しているが、上流部には用水路や井堰が多く下流部においてはため池が多く見うけられる。かんがい面積について見ると大淀川水系の総かんがい面積は約24,500haである。

表5-2 主な農業用水取水施設箇所数一覧表

河川名	取水施設箇所数	取水量 (m^3/s)	かんがい面積 (ha)	摘要
大淀川	高木原揚水機等 15ヶ所	7.022	4222.32	
本庄川	木森用水井堰等 13ヶ所	11.893	3954.80	綾北、深年川含む
高崎川	鶴ヶ久保揚水機 1ヶ所	0.075	4.12	
その他	天神ダム等 3ヶ所	12.003	8255.80	

出典) 水利権一覧表(宮崎工事事務所 平成13年7月)

3) 都市用水

大淀川流域において、直轄区間からの取水による上水道を有する市町村は宮崎市の3ヶ所と国富町の1ヶ所のみである。指定区間における上水による水利用は無い。

工業用水については、流域内に大きな工場がなく、現在大淀川の豊富な水は、ほとんど利用されていない。しかしながら、すでに宮崎県中南部地区に低開発地域工業開発促進地区として13地区が指定されて、その内大淀川流域内に位置する地域も含んでいるため今後その需要も予測される。

5 - 2 渇水被害の概要

大淀川水系においては、河川流況は恵まれており、渇水被害の発生は過去において生じていない。

図5-1(2) 水利用模式図 (大淀川上流)

